



きこえにくい子を指導する方に知って欲しいこと

**基礎コース**

長崎県立ろう学校  
自立活動部 地域支援班  
2021.7 vol.11






難聴学級があると便利なもの

きこえにくい子どもへの特別なサポートを行ううえで、あると便利なものを紹介します。

1 聞こえを保障するもの

(1) 補聴器・人工内耳の活用

補聴器や人工内耳が正常に動いていないと、聴覚を十分に活用できません。電池が切れていないか、故障していないかチェックできるものがあると便利です。また、体育のあとや梅雨や冬の時期は補聴器や人工内耳が水分を含み故障しがちです。乾燥できるケースや乾燥機があると便利です。吸引機付きの乾燥機やシリカゲルなど乾燥剤を入れて乾燥させるものなどさまざまなものが販売されています。

補聴器が聞こえているかチェックする「ステゾスコープ」	補聴器・人工内耳の電池が切れていないかを確認する「電池チェッカー」	汗をかいた後など、補聴器・人工内耳を乾燥させる「乾燥機」や「補聴器・人工内耳ケース」
		

ケースは、空きびんにシリカゲルを入れて自作することもできます。学校にも準備してあると、補聴器・人工内耳をはずしておくときの置き場所も確定でき、紛失も防げます。

(2) 集団補聴援助システム

FM補聴システムやロジャーシステムなどを活用すると、授業や話し合い活動のとき、発言者の声が聞き取りやすくなります。必要な器具は個人で購入しますが、申請すると収入によって補助が出るので、購入の検討を勧めてください。

FM補聴システムもロジャーシステムも、補聴器の設定を「MT」にすることでマイクからの音も、周囲の音も聞こえるようにすることができます。購入時に設定してもらってください。



(3) 雑音を減らす




雑音によって、聴きたい音が聞きとれないことがあります。静かな環境で学習するために、できるだけ、周囲の雑音を減らしましょう。

- 机の脚にテニスボールをはかせる。
- 床にカーペットを敷く。
- 隣の教室との境の壁に吸音ボードを張る。



2 情報を保障するもの

視覚情報により連絡事項やそのとき行われていることを知らせると、分かりやすくなります。

必要な文字情報を提供するための「ホワイトボード 三連ボード」	連絡事項を視覚的に伝えるための「掲示板」	校外学習の際に便利な、書いたものを見直すことができる「スケッチブック」
		

持ち運びできるホワイトボードがあるとすぐに書き込めますが、常に持ち歩くことができません。そこで、メモ帳と筆記用具を常備していると、いつでも文字や絵で情報を伝えることができます。児童や生徒にも準備させたいものですが、まずは接する職員が準備しておくこと、何が起きているかが伝わりやすく安心できます。

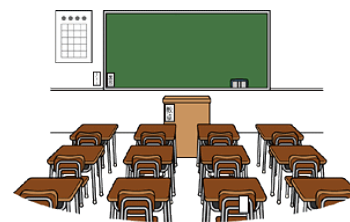
3 言語力を高めるもの

(1) 知らない言葉を調べることのできる「ことば絵辞典」「図鑑」

各社からさまざまなものが出されています。言葉を絵や写真で表されているので、分かりやすく語彙を増やすためには有効です。

(2) 言葉の数を増やすための「絵カード」

身近なものの名前から反対言葉などさまざまな絵カードがあります。児童・生徒の実態に応じて、必要なものを準備しましょう。抽象的な言葉も絵カードで繰り返し扱うことができます。



(3) 身の回りの言葉をするに書いて張れる「短冊」

絵カードだけでは、身の回りのことをすべて補うことはできません。目に付くところに短冊で物の名前を張っておくことで、視覚的に確認できます。

(4) 発音指導のとき、互いの口形を確認できる「鏡」

日本語の表出には発音指導が必要です。自分の声を聞いて正しく発音できているか確認することが難しいため、口や舌を見ながら発音練習すると分かりやすいです。自分の口形と指導者の口形を見比べることで違いが分かりやすくなります。児童・生徒と指導者の二人の顔が映る大きさと横長の鏡が使いやすいです。



ここにあげたすべてのものをそろえる必要はありません。児童・生徒の実態によって、準備できるものから始めてください。